

## コロナ禍における看護学生の訪問看護学内実習での 学びと今後の課題

浅野 倫子, 瀨田 寿美, 小楠 範子

### 要 旨

本研究の目的は、COVID-19の影響により学内実習へ変更したことに伴う実習目標の到達度や実習への充実感についての評価と、今後も起こり得る代替実習への示唆を得ることである。研究方法は、2020年度に訪問看護実習を行った3年次生53名を対象にアンケートを実施し、自由記述についての内容分析を行った。結果は、解答が得られた47名のデータを分析し【実習目標に応じた学び】、【学生の学びの環境】、【看護の関心への広がりや達成感】の3カテゴリーが抽出され、それらは9サブカテゴリー、52コードより構成されていた。【実習目標に応じた学び】では、実習目標に応じた学びが得られたことが示唆され、加えて【学生の学びの環境】を十分に確保することが必要であり、そのことが実習目標を達成することに繋がっていた。また、【看護の関心への広がりや達成感】は、実習の充実感が得られることで、自身の課題の発見や次の他領域への実習の意欲にも繋がっていたことが示唆された。

**キーワード**：新型コロナウイルス感染症、訪問看護(在宅看護)、学内実習

### I. 諸 言

看護実践能力育成における臨地実習の意義は<sup>1)</sup>、看護職者が行う実践の中に学生が身を置き、看護職者の立場でケアを行うことであり、看護の方法について「知る」「わかる」段階から「使う」「実践できる」段階に到達させるために不可欠な過程とされている。壬生ら<sup>2)</sup>は、在宅看護実習は臨床での実習とは異なり、人々の生活の場での活動であり、すべてのライフステージの人々が対象で多岐にわたる。対象者の病態等の理解に加え地域で生活する生活者として捉えた上での看護過程展開の理解が必要であると述べている。本学での訪問看護の実習でも、在宅療養者およびその家族への看護実践を通して、住み慣れた地域で安心してその人らしい暮らしを継続するために看護師に求められる役割について考察できることを目的とし、それが到達できるように在宅療養者とその家族を生活者として捉えることや、訪問看護の展開方法等の理解についてを学習目標として、実施してきた。

しかし、COVID-19の影響を受け、本学でも2020年度の訪問看護の実習を学内実習へ切り替えざるを得ない状況であり、本来ならば生活の場で展開される訪問看護実習の学びを学内実習で得られるよう実習内容等を検討し試行錯誤しながら実施した。実習内容を変更することに関しては、文部科学省からの「新型コロナウイルス感染症に伴う医療関係職種等の各学校、養

成施設等の対応について」の内容で「実習中止、休講等が生じ、授業の実施期間が例年に比べて短縮された場合であっても、必要な単位もしくは時間を履修し、または必要な単位もしくは時間を履修して卒業(修了)した者については、従来通り、各医療関係職種等の国家試験の受験資格が認められること」「実習施設等の代替が困難である場合、実情を踏まえ実習に変えて演習または学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を習得することとして差し支えない」とある<sup>3)</sup>。また、本学同様に全国的にも日本看護系大学協議会で実施した調査「新型コロナウイルス感染拡大にかかる、看護系大学への影響及び対応に関する調査」(第2弾)の回答結果では48.7%の大学が実習内容を変更していた<sup>4)</sup>。

本実習では、到達目標は変更せず学内実習へと切り替えたが、学生にとっての学びの充実感や目標への達成感、またそこにはどのような課題や学びがあったのかを探究し、今後も起こり得る学内への代替実習の示唆を得ることを本研究の目的とした。

### II. 2020年度訪問看護実習(学内実習)の概要

既存の訪問看護実習要項を基に学内実習用に内容を一部変更し、実施した。

#### 1. 実習目的

在宅療養者及びその家族への看護実践を通して、住み慣れた地域で安心してその人らしい暮らしを継続するために看護師に求められる役割について考察できる。

2. 実習目標

紙上事例の看護展開を通して在宅療養者と家族に対する在宅看護について学ぶ。

- 1) 訪問看護の展開方法（訪問看護利用の流れと看護計画、実施、評価など）を理解する。
- 2) 訪問看護に関する法体系（介護保険に基づく訪問看護・医療保険に基づく訪問看護）を理解する。
- 3) 在宅療養者とその家族を生活者として捉えることの大切さを理解する。
- 4) 療養者とその家族の在宅療養上の課題と必要な看護について理解する。
  - ① 事前学習をし、訪問看護に必要な知識を整理した上で実習に臨むことができる。
  - ② 訪問看護指示書を受け、種々の書類や観察情報から事例の情報を整理し、アセスメントできる。
  - ③ アセスメントに基づき訪問看護計画を立案できる。
  - ④ 訪問看護場面をイメージし、訪問に必要な物品を準備することができる。
  - ⑤ 訪問看護計画に基づいて在宅での看護の実際をロールプレイで展開できる。（事例を理解し、役割になりきることができる）
  - ⑥ ⑤の実施を振り返り、看護の実施・評価と看護計画の修正に繋げることができる。

- ⑦ ⑥の実施を振り返り、家族の課題と必要な看護（社会資源の活用も含む）について検討できる。
- 5) 3) 4) を踏まえた上で、療養者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためにどのような社会資源を活用したらよいか、またどのような職種が関わり連携しているのかを考え、グループ討議を通して整理することができる。グループ討議の実施を踏まえ、サービス担当者会議の理解に繋げることができる。
3. 実習期間・実習時間・実習場所
  - 1) 実習時期は、3年次の後期である。
  - 2) 実習期間：2020年9月7日～2021年1月22日のうちの2週間
  - 3) 実習場所：本学内及びレジナハウス（ロールプレイの演習時のみ使用）  
 レジナハウスとは、法人で管理している住居であり、現在住居者がいないため、今回の実習のみ使用の許可を得られた建物である。
4. 実習方法
  - 1) グループ配置：1グループ5～6名の11グループとし、グループ別に実習する。
  - 2) 実習日程：2週間の実習の基本的な日程は表1の通りである。

表1 訪問看護学内実習の展開方法（実習期間10日間）

日	実習内容
1日目	1. オリエンテーション ・実習の進め方や到達目標と期待される行動について説明 ・基礎知識の確認 2. 模擬事例演習について ・模擬事例のDVDを視聴し、訪問看護事例のイメージを掴む ・模擬事例のカルテから情報収集とアセスメントを行う 3. グループ学習 ・模擬事例が退院後の在宅療養での困りごとについてグループで共有
2日目	1. DVD視聴、模擬事例のカルテより情報収集しアセスメントを行う 2. 訪問看護計画書を作成する 3. 訪問（翌日のロールプレイ）場面をイメージし、訪問に必要な物品を準備する
3日目	1. 訪問看護計画書に基づいて訪問看護を実施する（ロールプレイ） <役割>療養者・家族・訪問看護師・タイムキーパー・観察者 <時間配分>訪問時間1人30分 振り返り20分 1人持ち時間50分 2. グループ学習（ロールプレイが全員終了後） ・模擬事例が生活している周辺の環境を散策し、地域の特性を理解する
4日目	1. ロールプレイの訪問看護を通して得た情報を記録用紙を用いて整理する 2. 模擬事例の看護を振り返り、実施・評価をした上で看護計画の修正を行う 3. 模擬事例に必要な社会資源について、記録用紙を用いて整理できる
5日目	1. 模擬事例での必要な社会資源に関する検討（グループ討議）し発表 2. 事例の状況変化の情報を受け（特別訪問看護指示書の追加）、情報を追加した上でアセスメントし、計画を追加修正する

6 日目	<p>&lt;前回の訪問看護を受け、福祉用具が設置されている&gt;</p> <p>1. 前回の訪問及び特別訪問看護指示書を受けて修正した訪問看護計画書に基づいて訪問看護を実施する（ロールプレイ）</p> <p>&lt;役割&gt;療養者・家族・訪問看護師・タイムキーパー・観察者</p> <p>&lt;時間配分&gt;訪問時間 1 人 50 分 振り返り 10 分 1 人持ち時間 60 分</p>
7 日目	<p>1. ロールプレイの訪問看護を通して得た情報を記録用紙を用いて整理し、実施評価をした上で看護計画の修正を行う</p> <p>2. 模擬事例の家族に必要な看護について整理できる</p>
8 日目	<p>1. ICF シートを用いて模擬事例の看護実践をまとめる</p> <p>2. 必要に応じて他の記録類の追加・修正</p> <p>3. グループ学習（ICF シートのグループ共有）</p>
9 日目	<p>1. 個人のまとめ（レポート）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬事例訪問看護実習からの学び</li> <li>・住み慣れた地域で安心してその人らしい暮らしを継続するために看護師としてできること</li> </ul> <p>2. グループまとめ</p>
10 日	<p>1. まとめ発表（グループごと）</p> <p>2. 個別面談</p>

### III. 研究方法

#### 1. 研究対象及びデータ収集方法

研究対象者は、本学で 2020 年度に訪問看護実習を履修した 3 年次生 53 名であり、アンケートは、以下の質問内容で各グループの訪問看護実習後に行った。

(1) の質問：「今回の学内演習のプログラムは実習目的・目標に到達できるようなプログラムだったと思いますか」

(2) の質問：「今回の実習に関して、あなた自身の充実感はいかがですか」

(3) の質問：この学内実習の進め方に関して、ご意見・感想・要望等がありましたらご自由にお書きください。

アンケート実施は、訪問看護の実習終了日に個人が特定されないように無記名で行い、教員がいない状況下で回収箱に提出を依頼した。

#### 2. 分析方法

アンケート (3) の自由記述を分析対象とし、内容分析の手法を用いて分析した。訪問看護の「学び」、実習内容への「意見」に関連する記述を抽出したのちコード化し、内容が一文一義であるように区切り一文章を記録単位とした。次に個々の記録単位を意味内容が類似しているものごとに帰納的に分類し、カテゴリー化した。記述内容の類似性によりサブカテゴリーを抽出し、サブカテゴリー間の関連を検討し、カテゴリーを分類抽出した。アンケート内容は研究者 3 名で精読し分析を行った。文中ではカテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >, コードを「 」で示す。

#### 3. 研究期間

データ収集期間は、2020 年 9 月～2021 年 3 月で

ある。

#### 4. 倫理的配慮

各グループの実習終了後に、学生に口頭で説明を行い、アンケート提出にて同意であることとした。アンケートは無記名で行い、回収についても教員が立ち会うことがないようにした。また、研究協力への学生への依頼については、個人が特定されないこと、研究参加は学生の自由意志であること、研究参加の有無による学生生活の不利益は被らないこと、成績評価には一切関係ないこと、研究途中であっても研究参加への辞退が可能であること、今後の実習指導改善に活用したいこと、結果は匿名性を確保して公表されることを説明し、同意を得た。データの取扱いについては、本学の研究データの保存等に関するガイドラインを遵守し慎重に行い、データは鍵のかかる書棚に保管した。研究を公表する際は、個人が特定されないよう配慮することを説明した。

### IV. 結果

研究参加者は、本学で 2020 年度に老年看護実践（訪問看護実習）を履修した 3 年次生 53 名のうち、「老年看護実践（訪問看護）実施後アンケート」に同意し、回答が得られた 47 名であり、回収率は 89%であった。また、質問 (1) については、「はい」「いいえ」での回答方法で「はい」と回答があった学生が 47 名 (100%)、質問 (2) は、「とても充実していた」「やや充実していた」「やや物足りなかった」「とても物足りなかった」の回答方法で、「とても充実していた」が 37 名 (79%)、「やや充実していた」が 10 名 (21%) であった。質問 (1)

(2) より、実習内容や実習についての評価が得られていたため、自由記述である質問(3)についてを分析データの対象とし、どのような内容が充実感へと繋がったのか質的機能的に分類した。データから 52 のコード、9 のサブカテゴリー、3 のカテゴリーが抽出された (表 2)。本文では、実習の充実感や学びについての内容をコード「」、サブカテゴリー「**< >**」、カテゴリー「**【 】**」で示した。

1. 【実習目標に応じた学び】は、<学生が掴む訪問看護の実際のイメージ>、<学生が対象を生活者として捉える視点>、<療養者の生活環境に応じた看護の工夫>、<学生が掴む訪問看護のシステムや周囲の環境>の 4 サブカテゴリーから抽出された。<学生が掴む訪問看護の実際のイメージ>では、「訪問看護の様子をイメージできた」や「実施をリアルに行うことができた」、「訪問看護の流れをイメージすることができた」等 8 コードからなり、<学生が対象を生活者として捉える視点>では、「実際の事例の生活の様子がイメージできた」や「実際に生活用品があり生活環境を観察できた」などの 6 コードから抽出された。<療養者の生活環境に応じた看護の工夫>では、「演習でケアの方法をイメージすることができた」や「ケアの実際の応用を学ぶことができた」など 6 コードからなり、<学生が掴む訪問看護のシステムや周囲の環境>は、「社会体系(法体系)をじっくり考えることができた」や「在宅での多職種連携について知ることができた」などの 6 コード

によって抽出された。

2. 【学生の学びの環境】は、<学生の学びにあったプログラム>、<学生の学びを促進させる創意工夫>、<学ぶ環境の限界>の 3 サブカテゴリーから抽出された。<学生の学びにあったプログラム>では、「自分のペースで取り組めた」や「記録の進め方はちょうどいい流れで進めていくことができた」、「学びがごちゃごちゃしなかった」など 7 コードが抽出された。<学生の学びを促進させる創意工夫>では、「実際の訪問看護をしているような環境設定だった」や「疑問を教員にすぐ聞くことができた」、「疑問をため込まず進めることができた」など 7 コードの抽出であり、<学ぶ限界>は、「娘さん役が登場しても生活がよりわかるため面白いと思った」や「時々進め方がわからない記録があった」、「書き方がわからない記録があった」の 3 コードから構成されていた。

3. 【看護の関心への広がりや達成感】は、<実習の充実感や在宅看護への関心>と<次の実習や自身の課題と取り組みへの意欲>の 2 サブカテゴリーより抽出された。<実習の充実感や在宅看護への関心>では、「やりきった感がある」や「とても充実した学びとなった」、「在宅看護について興味をもって取り組めた」など 6 コードから抽出され、<次の実習や自身の課題と取り組みへの意欲>については、「今回の学びを今後活かしたい」や「他の分野にも応用できる内容だった」、「自分の課題も見つかった」の 3 コードから構成されていた。

表 2 訪問看護学内実習における学び

カテゴリー 【 】 3	サブカテゴリー < > 9	コード「 <b> </b> 」52
実習目標に応じた学び (26)	学生が掴む訪問看護の実際のイメージ (8)	「訪問看護の様子をイメージできた」「実施をリアルに行うことができた」「1人の療養者に具体的に介入できた」「訪問看護の流れをイメージすることができた」「多くの情報のない中で在宅看護を行うと言っていたので家族に会えないこともあり得ると思った」「看護師に求められる視野の広さについて体験することができた」「実際の訪問看護をしているような環境だった」「特別訪問看護指示書等の書類を見て訪問に行く流れを理解することができた」
	学生が対象を生活者として捉える視点 (6)	「実際の事例の生活の様子がイメージできた」「実際に生活用品があり生活環境を観察できた」「実際の例を用いて療養者の姿について説明があり分かりやすかった」「療養者が日常使用する福祉用具も実際に使用できてよかった」「療養者の身体機能に合わせた環境を整えるために考えることができた」
	療養者の生活環境に応じた看護の工夫 (6)	「看護を行うことができた」「演習でケアの方法をイメージすることができた」「ケアの実際の応用を学ぶことができた」「じっくり事例展開できて訪問看護の理解が深まった」「在宅での看護展開を知ることができた」「在宅で行う応用した方法を教えてもらい、応用面も学ぶことができた」
	学生が掴む訪問看護のシステムや周囲の環境 (6)	「社会体系(法体系)をじっくり考えることができた」「訪問看護指示書等の書類を見て訪問看護のシステムを理解できた」「在宅での多職種連携について知ることができた」「法体系の中の訪問看護の流れをイメージすることができた」「実際の福祉用具を見て社会資源について理解できた」

学生の学びの環境 (17)	学生の学びにあったプログラム (7)	「自分のペースで取り組めた」「実施評価も具体的にできた」「記録の進め方はちょうどいい流れで進めていくことができた」「学びがごちゃごちゃしなかった」「実際の例を用いて説明があり分かりやすかった」「臨地に行けなかった分、ディスカッションで、学びを深めることができた」「グループワークはちょうどいい流れで進めていくことができた」
	学生の学びを促進させる創意工夫 (7)	「実際に生活用品があり対象の生活環境が見れた」「実際の訪問看護をしているような環境設定だった」「疑問を教員にすぐ聞くことができた」「疑問を溜め込まず進めることができた」「質問に丁寧に答えてくれてよかった」「実際の書類や福祉用具を見て在宅での他職種連携について知ることができた」
	学ぶ環境の限界 (3)	「娘さん役が登場しても生活がよりわかるため面白いと思った」「時々進め方がわからない記録があった」「書き方がわからない記録があった」
看護の関心への広がりや達成感 (9)	実習の充実感や在宅看護への関心 (6)	「色々な気づきがあってよかった」「学びが深まった」「やり切った感がある」「とても充実した学びとなった」「3つ実習が終わったが、1番学びを深めることができた」「在宅看護について興味を持って取り組めた」
	次の実習や自身の課題と取り組みへの意欲 (3)	「今回の学びを今後活かしたい」「他の分野にも応用できる内容だった」「自分の課題も見つかった」

V. 考 察

本結果である【実習目標に応じた学び】、【学生の学びの環境】、【看護の関心への広がりや達成感】の3カテゴリーが、学生の学びの充実感や実習目標の到達への学びにどのようにつながったのかについてを以下に考察する。

1. 【実習目標に応じた学び】

「訪問看護の様子をイメージできた」や「実際の訪問看護をしているような環境だった」から、ロールプレイを行う場面や療養者宅をイメージした環境作り、紙上事例を想像できるDVD視聴を行うことで<学生が掴む訪問看護の実際のイメージ>に繋がったのだと考える。また、「訪問看護の流れをイメージすることができた」や「特別訪問看護指示書の書類を見て訪問に行く流れを理解することができた」より、紙上事例のカルテや療養者の背景についての資料を把握することで、実際に訪問看護を行う場面だけではなく、訪問看護指示書を見て、どのような経緯で訪問看護につながるのかや、そこで求められる必要な看護についてを学んでいた。さらに「多くの情報がない中で在宅看護を行うと言っていたので家族に会えないこともあり得ると思った」や「看護師に求められる視野の広さについて体験することができた」では、ロールプレイや療養者宅に見立てたレジナハウスの周辺の散策を通して、訪問看護の依頼がきてから、どのような視点で療養者とその家族を捉えるのかを理解し、実際の訪問看護の場面で、必要とされる視点についても学んでいた。「1人の療養者に具体的に介入できた」や「実施をリアルに行うことができた」では、ロールプレイの設定

や実施が、学生にとって実施できたことへの充実感へと繋がっていたと考える。このことは、訪問看護の展開方法を理解することや療養者とその家族の在宅療養上の課題と必要な看護について理解することの実習目標の学びに繋がっていた。次に「実際の事例の生活の様子がイメージできた」や「実際に生活用品があり生活環境を観察できた」、「実際の例を用いて療養者の姿の説明があり分かりやすかった」より、紙上事例の療養環境作りや教員からの生活環境や療養者についての説明を具体的にを行うことで<学生が対象を生活者として捉える視点>へと繋がっていたと考える。実際の福祉用具を設置し使用することで「療養者が日常使用する福祉用具も実際に使用できてよかった」や「療養者の身体機能に合わせた環境を整えるために考えることができた」という学生の学びの充実感に繋がり、在宅療養者とその家族を生活者として捉えることの大切さを理解する実習目標の学びを得ていた。また、「演習でケアの方法をイメージすることができた」や「ケアの実際の応用を学ぶことができた」、「在宅で行う応用した方法を教えてもらい、応用面も学ぶことができた」より、療養者宅にあるものを使って清潔ケアを行う方法を実施することで<療養者の生活環境に応じた看護の工夫>について学んでいた。そして「看護を行うことができた」や「じっくり事例展開できて訪問看護の理解が深まった」では、1事例での看護展開であり学生が考えた看護を行うことで、充実感が得られたと考える。これは、訪問看護の展開方法を知るや療養者とその家族の在宅療養上の課題と必要な看護について理解する実習目標の学びに繋がっていた。更に「社会体系

(法体系)をじっくり考えることができた」や「訪問看護指示書等の書類を見て訪問看護のシステムを理解できた」、「法体系の中の訪問看護の流れをイメージすることができた」より、紙上事例のカルテ等とDVD視聴に関連した内容の説明を教員が行うことによって、<学生が掴む訪問看護のシステムや周囲の環境>への学びになり、訪問看護に関連する法体系を理解する目標の達成へと繋がっていた。また、「在宅での多職種連携について知ることができた」や「実際の福祉用具を見て社会資源について理解できた」は、ロールプレイやサービス担当者会議のDVD視聴と教員の説明によって、訪問看護を取り巻く周囲の環境について学び、療養者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくための社会資源の活用や多職種の連携について考え、サービス担当者会議への理解に繋げることができていた。このことは壬生<sup>2)</sup>の文献でも、臨地での実際の体験はできなかったが、在宅療養生活の様々な場面がイメージでき、在宅看護の対象を生活者として、全人的に捉える姿勢が持てたと述べ、本研究と同様に実習目標に応じた学びを得ていた。

## 2. 【学生の学びの環境】

「自分のペースで取り組めた」や「記録の進め方はちょうどいい流れで進めていくことができた」、「学びがごちゃごちゃしなかった」から、実習内容のプログラムの進め方は、<学生の学びに合ったプログラム>だったと考える。加えて、「実施評価も具体的にできた」や「実際の例を用いて説明がありわかりやすかった」では、通常の臨地実習と異なり1事例の看護展開や実施であることや、常時教員がいることで、分からないこと等について質問できる環境や内容であったと考える。

また、「臨地に行けなかった分、ディスカッションで学びを深めることができた」や「グループワークはちょうどいい流れで進めていくことができた」から、プログラム内容にグループワークやディスカッションを多用したことで、学生同士で新たな気づきや学びを深めることへと繋がっていたと考える。そして、<学生の学びを促進させる創意工夫>では、「実際に生活用品があり生活環境が見れた」や「実際の訪問看護をしているような環境設定だった」、「実際の書類や福祉用具を見て在宅での多職種連携について知ることができた」より、紙上事例の自宅に見立てて生活用品等の準備や配置を教員が行い、福祉用具についても設置する前後の自宅環境を整えたことで、学生自身が事例の環境への視点が増え、必要な看護についての学びへと繋がったと推測される。更に「疑問を教員にすぐ聞くことができた」や「疑問を溜め込まず進めることができた」、「質問に丁寧に答えてくれてよかった」から、

常時教員がいることで学生自身が適宜質問等を行い、早期に問題解決していきながら学ぶことができ、教員が学生にとって学びを促進させる環境となっていたと推測される。このことは、壬生<sup>2)</sup>の研究でも、教員が学生1人1人とじっくり関わることができ、在宅看護に対する知識・考え方を確認することに繋がったと述べており、本研究と同様であった。

しかし、一方で「時々進め方が分からない記録があった」や「書き方が分からない記録があった」から、教員へ質問できず分からないまま実習に取り組んでいた学生もいたことで、個々の学生に沿ったプログラムの進行や内容については<学ぶ環境の限界>があったと考える。

## 3. 【看護の関心への広がりや達成感】

「学びが深まった」や「やり切った感がある」、「とても充実した学びとなった」から、実習の充実感があり、「在宅看護について興味を持って取り組めた」や「色々な気づきがあってよかった」は、在宅看護への関心へと繋がりが、<実習の充実感や在宅看護への関心>を持つことができたと考える。また、「他の分野にも応用できる内容だった」や「自分の課題も見つかった」より、学習目標に沿った学びから他の領域実習や今後の自身の課題など、<次の実習や自身の課題と取り組みへの意欲>へと繋がっていたと考える。

以上のことから、学内実習であったが実習目標の到達への学びを得ることができていたと考える。それには学生の学びの環境を十分に準備することや、学生が生活の場をイメージすることができるよう教員からの説明や助言といった人的物的の両方の学びを促進する環境が必要であったことが示唆された。さらに実習目標を到達することで、看護への関心や自身の課題も考えることができていた。このことは、壬生<sup>2)</sup>が、学内実習は学生が事例にじっくり向き合うことができ、在宅看護に対する知識の獲得、視点の変化を感じることができていたと述べていることから、学ぶ環境の工夫等を行うことで臨地実習と同様の到達目標を達成できることを示唆していると考えられる。また、大森<sup>5)</sup>は、看護過程の展開は時間が十分取れ記録が深められることから、臨地実習でなくても学べる可能性を示唆しているため、今後実習内容について臨地実習でなければ学習できない内容を十分に検討し、起こり得る代替実習に備え学習プログラムを考えていく必要がある。加えて大森<sup>5)</sup>は、患者との人間関係の構築とケア(看護技術)の提供を通じた振り返りは臨地実習で学ぶ必要があると述べているが、本研究では、人間関係の構築についての結果が得られなかったため、今後検討していく必要があると考える。

また、今回は、自宅に見立てた家屋での演習実施や、

福祉用具を設置し教員も通常より3名多く実習に携わり学生の学ぶ環境を確保することができたが、継続的にこの環境を維持し、十分に準備することは家屋の老朽化に伴う維持費や教員の人員配置が難しいため困難である。そのため、今後は実際の家屋だけではなく、シミュレーション等も検討しながら、学ぶ教材や環境設備を多角的な視点で代替実習のあり方を考えていくことが必要ではないかと考える。

## VI. 研究の限界

本研究では、分析データが自由記載のアンケートであり、学内実習での充実度や実習目標の到達度を示すには限界がある。今後、実習の学びのレポートでの分析や臨地実習を行った学生との学びの比較検討を行い、課題を明らかにする必要があると考える。

## 文 献

- 1) 文部科学省：臨地実習の在り方 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm) (2022年11月9日検索)
- 2) 壬生寿子, 日當ひとみ, 田向たまき：COVID-19の影響を受け実施した在宅看護学内実習の評価と今後の課題. 八戸学院大学紀要 (63) : 83-92, 2021
- 3) 新型コロナウイルス感染症に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について [https://hojin.nurse.or.jp/hojin\\_system/upload/9900049620200623135630fl\\_1/20200623-725.pdf](https://hojin.nurse.or.jp/hojin_system/upload/9900049620200623135630fl_1/20200623-725.pdf) (2022年11月9日検索)
- 4) 看護学実習ガイドライン及び新型コロナウイルス感染症の発生に伴う学校養成所の運営に関する取扱い [https://www.janpu.or.jp/mext\\_mhlw\\_info/file/doc03.pdf](https://www.janpu.or.jp/mext_mhlw_info/file/doc03.pdf) (2022年11月9日検索)
- 5) 大森美保：コロナ禍における看護学生の臨地実習の代替実習に関する文献検討. 帝京科学大学紀 (18) : 157-164, 2022

## Learning and Future Challenges for Nursing Students' On-Campus Practice in Home-Visit Nursing in the COVID-19 pandemic

Department of Nursing, Faculty of Nursing and Nutrition,  
Kagoshima Immaculate Heart University

Rinko Asano, Hisami Hamada, Noriko Ogusu

**Keywords:** new corona infection, home health care nursing, on-campus training

### Abstract

The purpose of this study was to evaluate the learning of the attainment goals and the sense of fulfillment in practice following the change to on-campus practice due to the impact of COVID-19 and to obtain suggestions for possible alternative practice in the future. The research method consisted of a questionnaire administered to 53 third-year students who completed home health care nursing practice in 2020, and a content analysis of the free-response statements was conducted. The results were analyzed for the 47 students who responded to the questionnaire, and three categories were extracted: [learning in accordance with training goals], [learning environment for students], and [expansion of nursing interests and sense of achievement], which consisted of 9 subcategories and 52 codes. In addition, it is necessary to ensure an adequate learning environment for students, which is linked to the achievement of the training goals. In addition, it was suggested that [expansion of nursing interests and a sense of accomplishment] led to the discovery of their own issues and motivation to practice in a different area next time, as they gained a sense of fulfillment from the training.

---